ミノルタ ベクティス300L

J 使用説明書

正しく安全にお使いいただくために

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

 警告 この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです(左図の場合は発熱注意)。

⚠ 警告

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性(+／−)を逆に入れないでください。**
- **電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。**

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると、発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

製品および電池や付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

警告

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

注意

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
しばらく操作しないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ恐れがあります。

目次

お買い上げありがとうございます。

このカメラは、コンパクトなボディに24～70mmの3倍ズームレンズ*を内蔵した、アドバンストフォトシステム（以下新システム）対応のコンパクトカメラです。スリムなボディの外装には高品位のアルミを採用し、シャッターボタンを押すだけのフルオートに新システムの充実した機能を加え、手軽にきれいな写真を写すことができます。
カメラを十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

*24-70mmの2.9倍ズームを3倍ズームと呼称しています。

新システムの特長

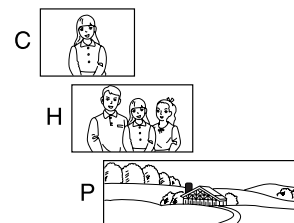
フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX 240 カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。

使用状態マーク

○ 未使用　◗ 撮影途中
✕ 使用済　□ 現像済

3種類のプリントタイプが選べます

新システムのカメラでは、プリントのタイプをCタイプ、Hタイプ、Pタイプの3つから選べます。また、1本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

現像・焼き増しも簡単です

お店に現像・プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（1本のフィルム内のすべての写真を、まとめて1枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。
このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単に行えます。

各部の名称

カメラボディ

＊ 印の付いたところは触らないでください。（　）内の数字は参照ページです。

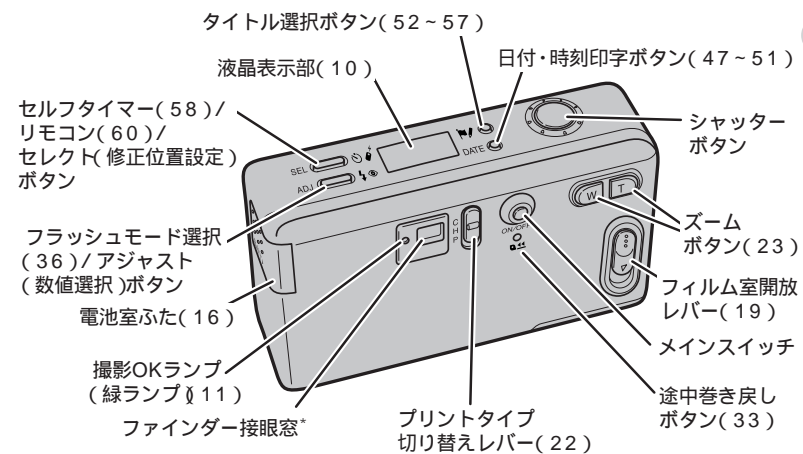
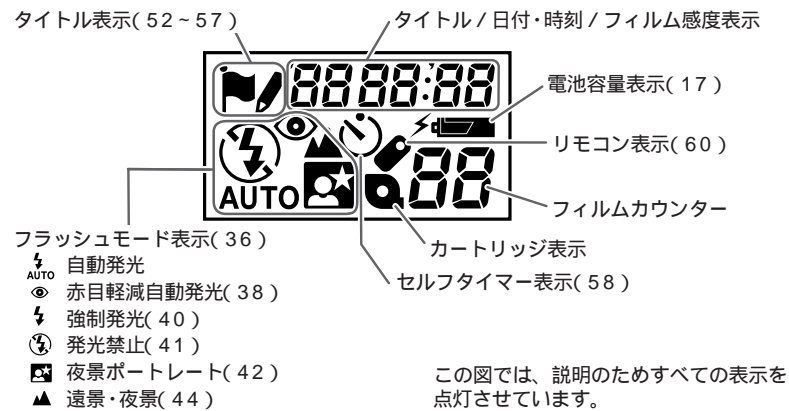
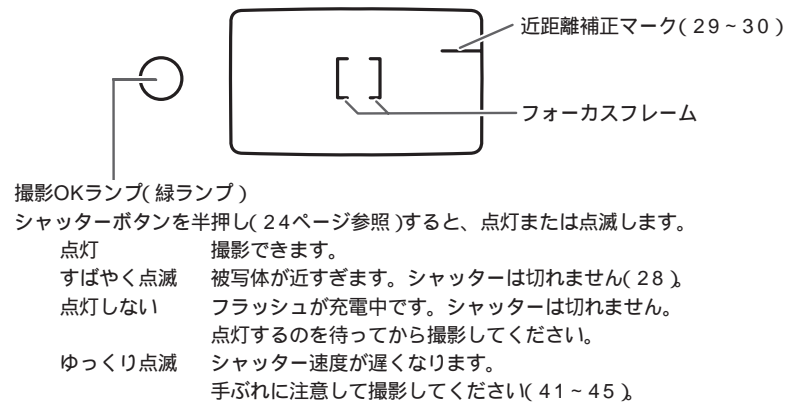
液晶表示部

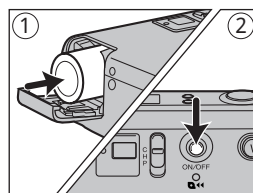
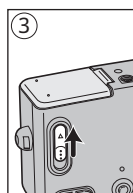
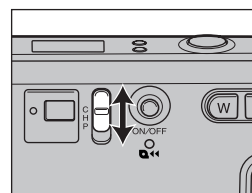
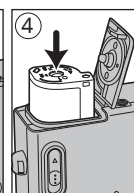
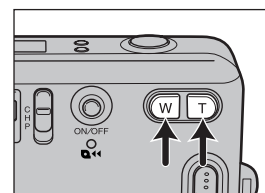
フラッシュモード表示（36）
- 自動発光
- 赤目軽減自動発光（38）
- 強制発光（40）
- 発光禁止（41）
- 夜景ポートレート（42）
- 遠景・夜景（44）

※この図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー表示部

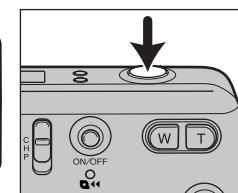
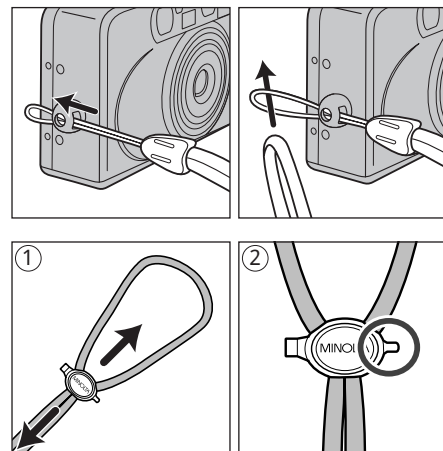
撮影OKランプ（緑ランプ）
シャッターボタンを半押し（24ページ参照）すると、点灯または点滅します。

点灯	撮影できます。
すばやく点滅	被写体が近すぎます。シャッターは切れません（28）。
点灯しない	フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。 点灯するのを待ってから撮影してください。
ゆっくり点滅	シャッター速度が遅くなります。 手ぶれに注意して撮影してください（41～45）。

撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください。）

④

1. 電池を入れて①、メインスイッチを押します②。

2. フィルムを入れます。
   - ● フィルム室開放レバーを矢印の方向に押して③、フィルムを入れます④。
   - ● 使用状態マークが○のフィルムをお使いください。

3. プリントタイプを選びます。

4. 撮りたいものの大きさを決めます（ズーム）。

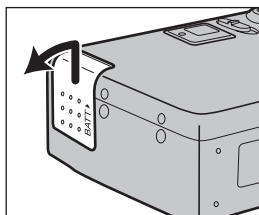
W（広角側）

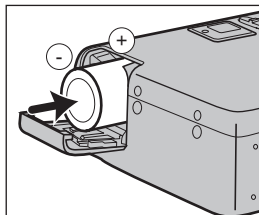
T（望遠側）

5. 撮りたいものに[ ]を重ねます。

6. シャッターボタンを押して撮影します。

ストラップを取り付けます

図のようにして、ストラップを取り付けます。

ストラップの持ち手の長さを調節することができます①。
また、小さい方の突起部分で途中巻き戻しボタン（33ページ参照）を押すことができます②。

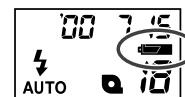
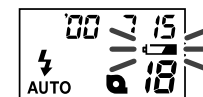
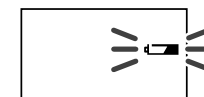
電池を入れます（お買い上げの際には、電池はすでに入っています）

3VリチウムCR2を１個使用します。

1. カメラ側面部の電池室ふたを図のようにに開けます。

2. 電池室内の＋／– 表示にしたがって電池を入れます。

3. 電池室ふたを元通りに閉めます。

● 電池を交換した後や入れ直した後は、メインスイッチを押すと液晶表示部に- - - - - - が点滅します。正しい日付・時刻を設定し直してください（48ページ参照）。

電池容量の確認

メインスイッチを押すとカメラの電源が入ります。そのときに自動的に電池容量がチェックされ、液晶表示部にその結果が表示されます。

点灯
電池容量は十分です
（約2秒後消灯します）。

点滅
新しい電池をご用意ください。
この状態でも撮影はできます。

のみ点滅
電池を交換してください。
シャッターは切れません。

● メインスイッチを押しても何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されなければ、電池を交換してください。

● このカメラは、電源を入れてから約8分以上何も操作をしないときは、節電のため、自動的にレンズが収納されて電源が切れます。撮影を再開するには、もう一度メインスイッチを押してください。

● お買い上げのときに入っている電池は、出荷時に入れたものですので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

フィルムを入れます

このカメラでは、新システムのフィルム（IX240カートリッジフィルム）を使用します。

使用状態マーク

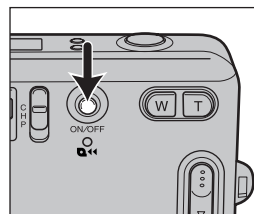
新システムのフィルムは、使用状態を4つのマークでお知らせします。4つのうち白くなっているマークが、そのフィルムの状態です。

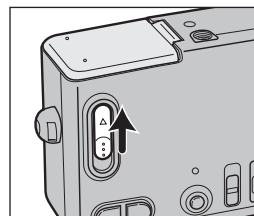
○：新品のフィルムです。

◗：途中まで撮影済みのフィルムです。

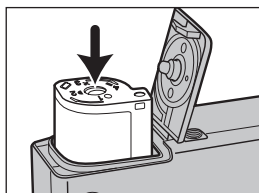
✕：全コマ撮影済みのフィルムです。

▯：現像済みのフィルムです。

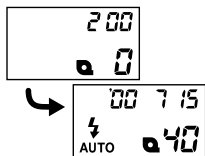
このカメラには、使用状態マークが○のフィルムをお使いください。◗のマークは、カートリッジ途中交換機能を備えたカメラで、途中まで撮影したフィルムにのみ現われます。このカメラでは◗のマークのフィルムは使用できません。

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

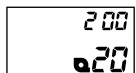
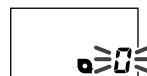
● レンズが少し前に出ます。

2.カメラを上下逆向けにして、フィルム室開放レバーを矢印の方向に押してフィルム室ふたを開けます。

（次ページに続く）

フィルムを入れます（続き）

3. フィルムを使用状態マークが上になるようにして入れます。

●フィルム室のふたを必要以上に押し開けないでください。

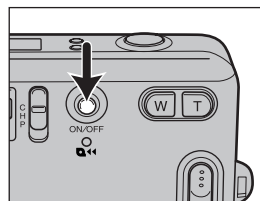
4. フィルム室のふたをカチッと音がするまできっちりと閉じます。

●ふたを閉めると、まず液晶表示部にフィルム感度等が現れます①。続いてフィルムが1コマ目まで巻き上げられ、フィルムの撮影可能枚数等が表示されます②。

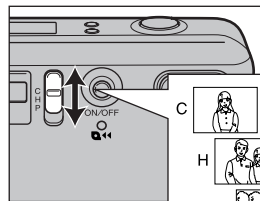
●メインスイッチが入っていない状態でフィルムを入れた場合、後からメインスイッチを押して電源を入れると、フィルムが1コマ目まで巻き上げられます。

●フィルムが入っている場合、フィルムカウンターが0以外のときはフィルム室を開けることはできません（セーフティロック）。

●使用状態マークが D、⊠、□ のフィルムをこのカメラに入れると、液晶表示部の 0 が点滅し、このカメラには使用できないフィルムであることをお知らせします（誤装填防止機能）。フィルムを取り出し、○のフィルムを入れてください。

●感度がISO25-3200の範囲外のフィルムや何か異常のあるフィルムを入れたときも 0 が点滅します。

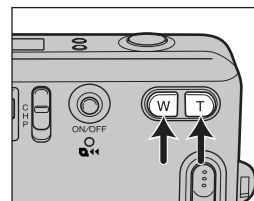
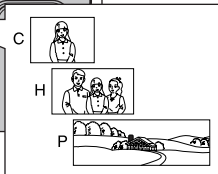
●使用状態マークが D（途中まで撮影済み）または□（現像済み）のフィルムを、一度このカメラに入れてから取り出すと、マークは ⊠ に変わり、どのカメラでも全コマ撮影済みのフィルムとして扱われます。

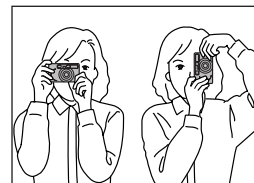
●○のフィルム（新品のフィルム）でも、ごくまれに1コマ目までの巻き上げが正しく行なわれない場合があります。このときも 0 が点滅しますので、フィルムをいったん取り出して入れ直してください。それでも同じ表示が出る場合は、当社サービスセンターまたはサービスステーションにご連絡ください。

全自動で撮影しましょう

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

●液晶表示部にフィルムの残り枚数等が表示されます。

2. プリントタイプ切り替えレバーで、プリントタイプ（C/H/P）を選びます。

●選んだプリントタイプに応じてファインダーが切り替わります。

●各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプ 89㎜×127㎜、Hタイプ 89㎜×158㎜、Pタイプ 89㎜×254㎜です。

3. ファインダーをのぞきながら、ズームボタンで、撮る範囲や撮りたいものの大きさを決めます。

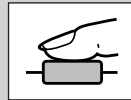
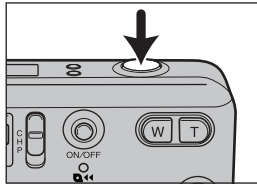
● T（望遠）を押すとより大きく写り、W（広角）を押すとより広い範囲のものが写ります。

カメラを構えるときは

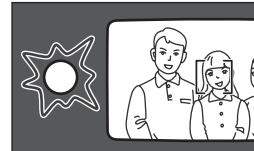
●レンズやフラッシュ、測距窓、測光窓などカメラの前面に、指や髪の毛、ストラップがかからないようにしてください。

●写真がぶれないように、脇を閉め、両手でしっかりと構えてください。

●縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。

（次ページに続く）

4.ピントを合わせたいものに[ ]を重ねて、シャッターボタンを半押し* します。

***シャッターボタンの半押し**

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。
この使用説明書では、そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

5.ファインダー横の撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯したら、そのままシャッターボタンを押し込みます。

●暗いときはフラッシュが自動的に発光します。

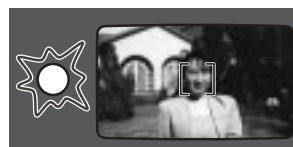
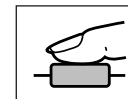
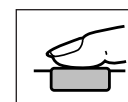
●撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯しないときはフラッシュが充電中です。緑ランプが点灯するのを待ってから、撮影してください。
●撮影OKランプ（緑ランプ）がすばやく点滅するときは、被写体が近すぎます。シャッターは切れません（28ページ参照）。
●シャッターボタンを押し込んだときにズームが動くことがありますが、動く前の構図で撮影されています。
●前方に伸びたレンズ部分を持たないでください。撮影結果に悪影響を及ぼすことがあります。
●シャッターボタンを押すときにズームボタンを押さないでください。
●使用後は、メインスイッチを押して電源を切ります。

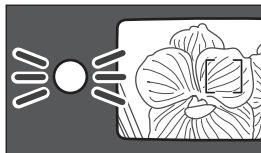
撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの（ピントを合わせたいもの）が画面の中央にないとき、そのまま撮影すると、左のように背景にピントの合った写真になってしまいます。こんなときは、撮りたいものに一時的にピントを合わせて固定し、その後構図を変えて撮影します。
この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときにも使えます（31ページ参照）。

1. ピントを合わせたいものに[ ]を重ねます。

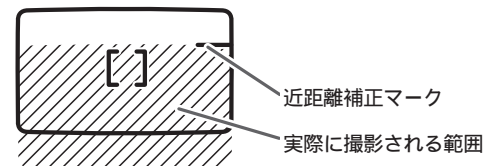
● オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときは、撮りたいものとほぼ同じ距離で同じくらいの明るさの別のものに[ ]を重ねます。

2. そのままの状態でシャッターボタンを半押しします。

● 撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯し、[ ]を重ねたものにピントが固定されます。

3. シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

近くのものを撮るときは

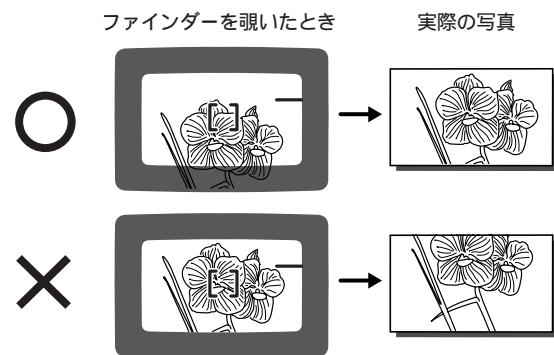
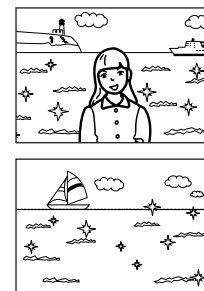
プリントタイプがHまたはCの場合、撮りたいものに50cmまで近づいて撮影できます。

● この距離より撮りたいものに近づき過ぎると、ピントが合わず、撮影OKランプ（緑ランプ）がすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。

● Pタイプのときは、最広角側（24mm）で50cm、最望遠側（70mm）で80cmまで近づくことができます。ズーム位置が中間のときは、近づける距離もその間になります。撮影OKランプが点灯すれば、ピントは合っています。
● 撮りたいものに極端に近づき過ぎると、撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯またはゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近距離補正マーク

1.3m未満の距離にあるものを撮るときは、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にずれが生じます。
ピントを合わせたいものを[ ]に入れてシャッターボタンを半押しした後、カメラを少し上にずらして撮影してください（26ページ参照）。撮影距離が短いほど、また望遠側で撮影するほど、ずれの量は多くなります。最大にずれた場合、近距離補正マークの位置が写真の上端になります。

（次ページに続く）

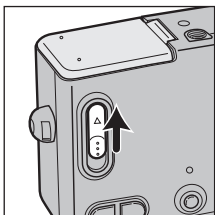
望遠側（70mm）で50cmのものを撮影する場合

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、以下のような撮影条件ではオートフォーカス機構が働きにくいことがあり、撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯またはゆっくり点滅しますがピントが合わないことがあります。このようなときには、写したいものとほぼ同じ距離で同じくらいの明るさの別のものにフォーカスフレームを重ね、シャッターボタンを半押しし、その状態で写したいものに構図を合わせて撮影して下さい（26ページ参照）。

- ●フォーカスフレーム周辺に非常に明るい光や強い反射がある場合。
- ●自動車のボディや水面など光を反射しやすいものを写すとき。
- ●髪の毛など光を反射しにくいものを写すとき。
- ●ガラス越しに撮影するとき。
- ●花火や炎など、実体のないものを写すとき。

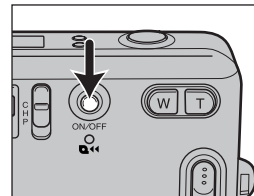
フィルムを取り出します

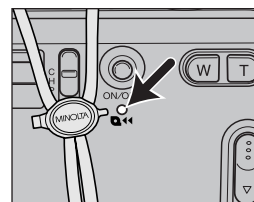
最後のコマまで撮り終えると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

1. 巻き戻しが終わるのを待ちます。

- 巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が順々に減っていきます。
- 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、[フィルムマーク] が点滅したら、巻き戻しは終了です。
- 巻き戻しが終わるとレンズが収納され、電源が切れます。

2. カメラを上下逆向けにしてフィルム室を開け、ふたを開けてフィルムを取り出します。

- 上下を逆にせずにそのままフィルム室を開けると、フィルムが落下します。
- 取り出したフィルムのマークは ※ になっています。

フィルムを途中で巻き戻すには

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

- メインスイッチが入っていない状態だと、巻き戻しはできません。

2. ストラップについている小さい方の突起部分で、途中巻き戻しボタンを軽く押します。

- ボタンを強く押し込まないでください。故障の原因となります。
- 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、[フィルムマーク] が点滅したら、フィルム室ふたを開けてフィルムを取り出します。

現像・プリントに出すときは

現像プリントサービス
認定店

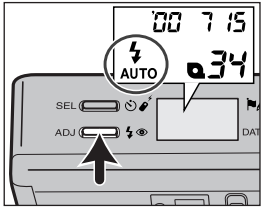
高品質なプリントを得るために、このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、左の「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示してあるお店にお出しください。現像プリントサービス認定店でのサービスについては、66ページをご覧ください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

フラッシュ撮影

メインスイッチを押して電源を入れると、フラッシュは自動発光、または赤目軽減自動発光となり、必要なときには自動的に発光します。

フラッシュモードの選択

フラッシュモード選択ボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

● 自動発光と赤目軽減自動発光は、設定後、カメラの電源を切ってもそのまま保持されています。その他のフラッシュモードは自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

自動発光 ……………必要時にはフラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減自動発光 ……目が赤く写るのをやわらげるため、撮影直前に赤目軽減ランプが点灯します。→38ページ

強制発光 ……………フラッシュは必ず発光します。→40ページ

発光禁止 ……………フラッシュは発光しません。→41ページ

夜景ポートレート ……夜景を背景にした人物撮影ができます。→42ページ

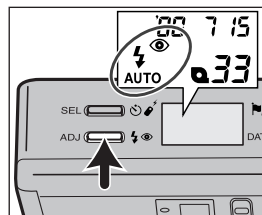
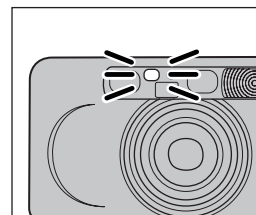
遠景・夜景 ……………遠くのものや、夜景のみを撮影するときに使います。→44ページ

フラッシュ光の届く距離

フラッシュ光の届く距離には限度があります。下の表を目安に、この範囲内で撮影してください。

ズーム位置（焦点距離） / フィルム感度	広角（24㎜）側	望遠（70㎜）側
ISO 100	0.5m～3.3m	0.5m～1.7m
ISO 200	0.5m～4.7m	0.5m～2.4m
ISO 400	0.5m～6.6m	0.5m～3.4m

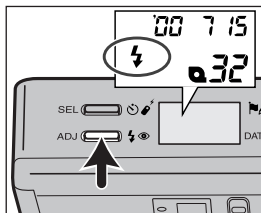
フラッシュで目が赤く写るのをやわらげるには（赤目軽減自動発光）

シャッターが切れる直前に、カメラ前面の赤目軽減ランプが点滅して、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡👁AUTO を点灯させます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

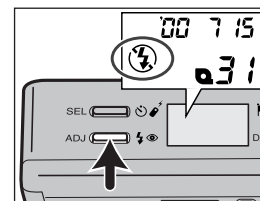
- カメラ前面の赤目軽減ランプが点滅して、直後にシャッターが切れます。
- シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間、カメラを動かしたり写される人が動かないよう注意してください。

- 赤目軽減自動発光は、設定後、カメラの電源を切っても、そのまま保持されています。フラッシュモード選択ボタンを押すと他のフラッシュモードに切り替えることができます。

フラッシュを必ず発光させたいときは（強制発光）

逆光のときや、明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているとき、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなど、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、ϟ を点灯させます。
2. シャッターボタンを押して撮影します。
   - ●メインスイッチを押して電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

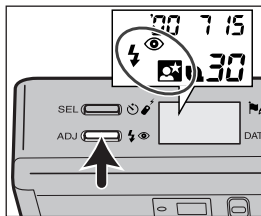
フラッシュを発光させたくないときは（発光禁止）

美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されているときは、フラッシュを発光させずに撮影します。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、Ⓢ を点灯させます。
2. シャッターボタンを押して撮影します。
   - ●メインスイッチを押して電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

●夕方の風景や街の夜景などを撮影する場合は、44ページの「遠景・夜景」で、夜景を背景に人物撮影をする場合は、次のページの「夜景ポートレート」で撮影してください。

暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約8秒）、写真がぶれやすくなります。撮影OKランプ（緑ランプ）がゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

夜景を背景に人物撮影するときは（夜景ポートレート）

シャッター速度が遅くなり、フラッシュが発光します。人物も背景の夜景も両方写すことができます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、を点灯させます。

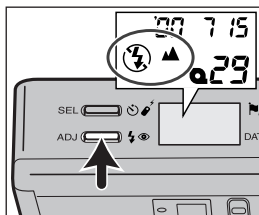
● フラッシュは必ず発光します（強制発光）。また、シャッターが切れる直前にカメラ前面の赤目軽減ランプが点滅して、目が赤く写るのを目立たなくします。

2. 構図を決め、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

● 人物のいない夜景を撮影するときは、次ページの「遠景・夜景」をおすすめします。
● メインスイッチを押して電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

シャッター速度が遅くなりますので（最長1秒）、カメラを三脚などに固定して撮影してください。また、写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。

風景・夜景を撮影するときは（遠景・夜景）

風景や夜景を撮影するときなどに、ピントを遠くに合わせます。フラッシュは発光しません。またガラス越しの風景でも、ピントがきれいにあった写真が撮れます。

1. フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡▲を点灯させます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

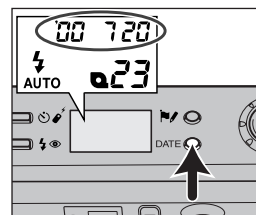
● メインスイッチを押して電源を切ると、次に電源を入れたときは、自動発光または赤目軽減自動発光（前回撮影した方）に戻ります。

暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長約8秒）、写真がぶれやすくなります。撮影OKランプ（緑ランプ）がゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

こんなこともできます

日付・時刻を入れましょう

日付や時刻をプリントの表裏両面に印字することができます。

●現像・プリント取扱店によっては、表面の印字に対応していないところもあります。詳しくは取扱店にお問い合わせください。

カメラの電源を入れ、日付・時刻印字ボタン（DATE）を押して印字される内容を選びます。

●日付・時刻印字ボタン（DATE）を押すごとに、液晶表示部の表示が以下のように切り替わります。

'00 7 20 → 13:35 → - - - - - -
（年月日）　（時分）　（印字なし）

●- - - - - - が表示されているときは、表面には何も入りませんが、裏面には年月日時分が印字されます。

●日付・時刻や- - - - - - が点滅しているときは、印字されません。日付と時刻を設定してください（次ページ参照）。

日付・時刻を入れましょう（日付・時刻の修正）

このカメラには2029年までの日付が記憶されています。撮影のたびに数値を設定する必要はありません。電池を交換した後や入れ直した後など、数値の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

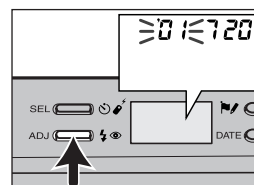
1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります①。

2. 日付・時刻印字ボタンを押します②。

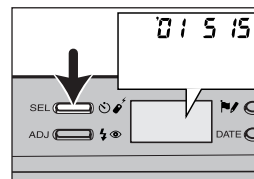
●「年月日」が表示されます。

3. セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。

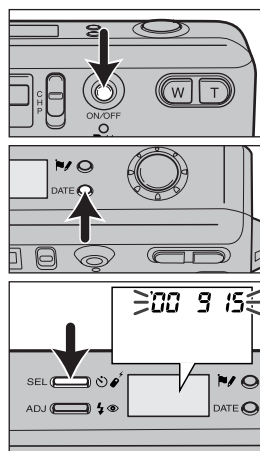
●「年」の数字が点滅します。

●セレクトボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順に点滅箇所が変わります。

4. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、点滅している数値を修正します。

●押し続けると、点滅箇所の数値が早送りされます。

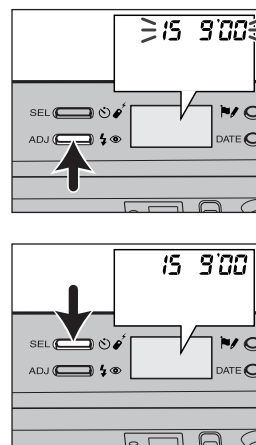
5. 他にも修正個所があるときは、セレクトボタンで修正個所を点滅させ、アジャストボタンで修正します。

6. 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクトボタンを何回か押します。

●数値の修正が完了し、5秒後に液晶表示部が消灯します。

日付・時刻を入れましょう（年月日の並び変え）

「年月日」の順序を変えることができます。
変更した並び順は電池を交換した後も変わりません。

1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

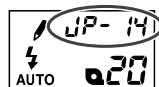
2. 日付・時刻印字ボタンを押します。
   - ●「年月日」が表示されます。

3. セレクト（修正位置選択）ボタンを3秒間押し続けます。
   - ●「年月日」すべてが点滅します。

4. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、年月日の並び順を選びます。
   - ●ボタンを押すごとに、年月日の並び順が以下のように切り替わります。

'00 9 15 → 9 15'00 → 15 9'00
（年月日）　（月日年）　（日月年）

5. 希望の並び順を選んだら、セレクトボタンを押します。
   - ●並び換えが完了し、5秒後に液晶表示部が消灯します。

タイトルを入れましょう

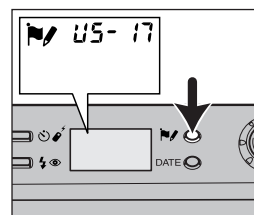
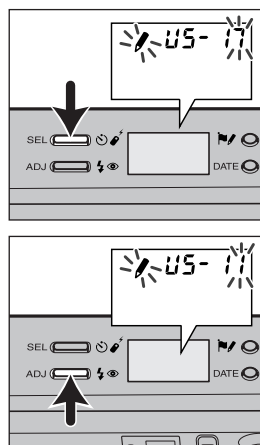
「タンジョウビ」、「アイラブユー」などのタイトルをプリントの裏に印字することができます。
タイトルを印字するには、タイトルリストの中から印字したいタイトルを選んで、あらかじめカメラに登録しておく必要があります。タイトルは3つ登録できます。

タイトルは、「*JP-14*」のように、言語を表す略語（この場合は日本語を表す*JP*）と、タイトルを表す2ケタの数字（*14*）との組み合わせで表示されます。詳しくは付属の「タイトルリスト」をご覧ください。
が点灯しているときは、タイトル印字が行われることを示します。

- ●カメラを購入されたときは、*US-17*（Happy Birthday）、*US-14*（I Love You）、*US-02*（Vacation）の3つが登録されています。
- ●表面の印字、および日本語（*JP*）以外の言語の印字が可能かどうかについては、あらかじめ現像・プリント取扱店にお問い合わせください。
- ●日本語（*JP*）およびアメリカ英語（*US*）以外の言語リストが必要な場合は、お近くの弊社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

タイトルを入れましょう（タイトルの登録と変更）

登録されているタイトルを変更するには、次のようにします。
（例）*US-17*（Happy Birthday）を、*JP-01*（タンジョウビ）に変更する場合

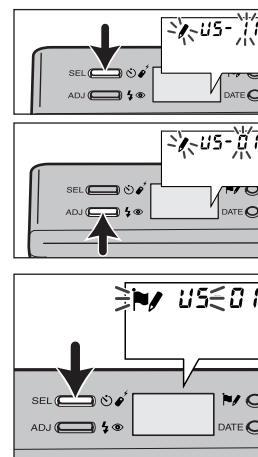
1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

2. 付属の「タイトルリスト」から、新たに登録したいタイトルの略語と数字（*JP-01*）を選びます。

3. タイトル選択ボタンを押して、変更したいタイトル（*US-17*）を表示させます。

（次ページに続く）

4.セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。

●タイトル選択番号の一の位の数字（*7*）が点滅します。

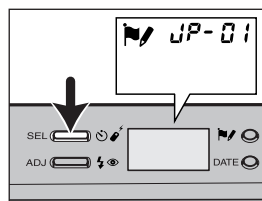
5.アジャスト（数値設定）ボタンを押して、一の位の数字を変更します（*7*→*1*）。

●押し続けると連続して変わります。

6.セレクト（修正位置選択）ボタンで十の位の数字（*1*）を点滅させ、アジャストボタンで希望の数値にします（*1*→*0*）。

7.セレクトボタンを押します。言語の略語が点滅します（*US*）。

（次ページに続く）

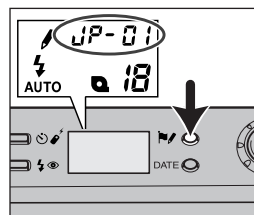
SEL ADJ DATE JP-01

8. アジャストボタンを押して、希望の言語を表示させます（*US*→*JP*）。

9. セレクトボタンを押して、すべての表示を（点滅でなく）点灯させます。

● タイトルの登録が完了し、8分後に液晶表示部が消灯します。

● セレクトボタンの代わりにタイトル選択ボタンを押すと、次のタイトルの変更ができます。

タイトルを入れましょう

タイトルはひとコマごとに設定します。

1. メインスイッチを押してカメラの電源を入れ、タイトル選択ボタンを押して、印字したいタイトルを選びます。

● 液晶表示部に ✎ とタイトルの言語と数字が現れます。

● タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3個のタイトルが以下のように順に現れます。

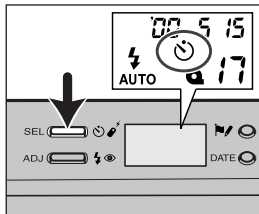
✎JP-01 → ✎US- 14 → ✎US-02 → '00 8 25

● タイトル選択後、カメラの他の操作をすると、選んだタイトルの言語と数字の表示が、日付・時刻や - - - - - - に変わります（✎は残り、タイトルが印字されることを表します）。

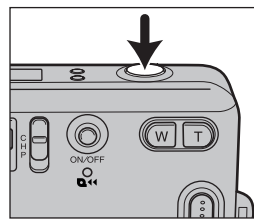
2. そのまま、シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影後、タイトルの設定は解除されます。

セルフタイマー撮影

撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念写真などに便利です。

1.カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／リモコンボタンを押して、⏲を点灯させます。

2.撮りたいものに[ ]を重ねます。

●撮りたいものが画面中央にないときは、まず、撮りたいものに[ ]を重ねてシャッターボタンを半押しし、そのまま撮りたい構図に変え（26ページ参照）、次ページの 3. に従ってシャッターボタンを押し込みます。

3.シャッターボタンを押します。

●カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプと液晶表示部の ⏲ が点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。

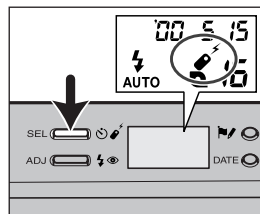
●撮影直前には作動表示ランプがすばやく点滅、その後点灯して、撮影のタイミングをお知らせします。

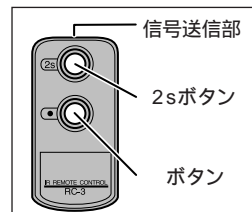
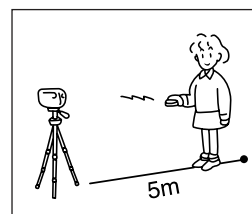
●カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。

●撮影後は通常撮影に戻ります。

●セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー／リモコンボタンを押すか、メインスイッチを押して電源を切ってください。

リモコン撮影

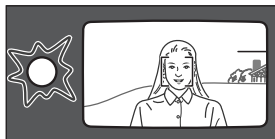
付属のリモコン（IRリモコンRC-3）を使うと、カメラから離れてシャッターを切ることができます。

1.カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー／リモコンボタンを押して、 を点灯させます。

2.撮りたいものに[ ]を重ねて、構図を決めます。

3.カメラから5m以内の位置で、リモコンの信号送信部をカメラに向けて、2sボタンか●ボタンを押します。

- ●2sボタンを押すと、セルフタイマー／リモコン作動表示ランプが数回点滅して、約2秒後にシャッターが切れます。●ボタンを押した場合は1回だけ点灯して、すぐにシャッターが切れます。
- ●メインスイッチを押して電源を切ると、通常撮影に戻ります。
- ●約8分以上カメラやリモコンを操作しないと、節電のため、自動的にレンズが収納されて電源が切れます。
- ●逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影の可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

（次ページに続く）

撮りたいものが画面中央にないときは
（オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいとき）

リモコン撮影で撮りたいものが画面中央の[ ]にないときは、以下の手順で撮影してください。この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体をリモコン撮影で撮りたいときにも使えます。

1. リモコン撮影モードにします。
2. 撮りたいもの（または、撮りたいものと同じ距離で同じくらいの明るさの別のもの）に[ ]を重ねて、シャッターボタンを半押しします。

● 撮影OKランプ（緑ランプ）が点灯し、[ ]を重ねたものにピントが固定されます。

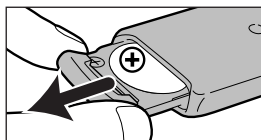
● シャッターボタンの半押しで、何度でもピントを合わせ直すことができます。

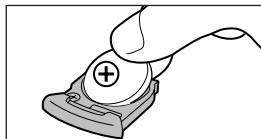
3. シャッターボタンから指を離して、撮りたい構図に変えます。
4. リモコンの2sボタンか●ボタンを押して撮影します。

● 撮影後も緑ランプは点灯したままで、ピント位置が固定されていることをお知らせします。同じ距離のものなら続けて撮影できます。

● ピント位置の固定をやめたいときは、セルフタイマー／リモコンボタンでリモコン撮影モードを再設定するか、ズームレバーを操作してください。

リモコン用電池の交換

リモコン用の電池には、リチウム電池（CR2032）１個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

1. リモコンを裏向けて、電池室を矢印の方向へ引き出します。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池を＋側を上にして入れます。

3. 電池室を元どおり確実にはめ込みます。

コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

付　録

プリント時のサービスについて

左の認定店マークを掲示しているお店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

①プリントタイプ切り替え（C / H / P）に対応します。

撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

②日付やタイトルを印字します。

日付や時刻を写真の裏面または両面に、お客様が設定されたタイトルを写真の裏面に印字してお返しします。

③プリント画像を自動で補正します。

フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして、最適な画像が得られるようプリント時に自動で補正します。

④フィルムをカートリッジ内に巻き取ってお返しします。

現像済みのフィルムは、カートリッジ内に巻き取られた状態でお客様にお返しします。
※現像済みフィルムのカートリッジの使用状態マークは□になります。

⑤インデックスプリントをお渡しします。

1本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて1枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

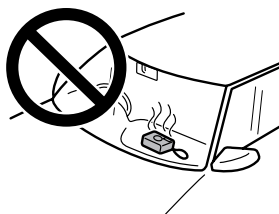
これらの5つのサービスは、それぞれお客様のご要望に応じて変更することができます。詳しくは、お店の方にお問い合わせください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

取り扱い上の注意

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は−10 ～ 40℃です。
●直射日光下の車内など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
●湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

●電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

フィルムの取り扱いについて

●新システムのフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ（テレビ受像機やスピーカーの上など）に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

その他の注意

- このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- 測距窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。

- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

万一、不具合が生じたときは

- お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝えください。
- 故障の際は、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げ店またはお近くの弊社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。フィルムを取り出した後で不具合が分かった場合は、そのフィルムも一緒にお持ちください。

こんなときは

症状	原因	対策	ページ
液晶表示部に 何も出ない	電池の入れ方が間違っている	電池を正しく入れ直す	16
シャッターが 切れない	フラッシュが充電中	緑ランプが点灯するまで待つ	25
	撮りたいものに近づき過ぎている	緑ランプが点灯する距離まで離れて撮影する（HまたはCタイプで50cm）	28
フィルムが巻き上げられない、または途中巻き戻しできない	カメラの電源が入ってない	メインスイッチを押してカメラの電源を入れる	19 33
写真がブレている	暗い所でフラッシュを 使わずに撮影したので、 手ブレをおこした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用する	41 44

症状	原因	対策	ページ
フラッシュを 使用したのに 写真が暗い	フラッシュ光の届かない 距離で撮影した	フラッシュ光の届く距離内で 撮影する	37
	フラッシュの前に指を かけていた	撮影時はフラッシュの前に指を かけない	23
日付印字がない	電池交換後、日付を設定していなかった	日付・時刻を設定する	48
フィルム室が 開かない	フィルムを巻き戻して いない	最後まで撮影するか、途中巻き戻しボタンでフィルムを巻き戻す	33
電池容量が十分あるのにカメラが動かなかったり、液晶表示部が全て点滅する	電池を一度取り出し、再度入れてから、カメラの電源を入れ直してください。それでも正常動作に戻らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、お近くの弊社サービスセンターまたはサービスステーションまでカメラをお持ちください。		--

主な性能

カメラタイプ	IX240レンズシャッターカメラ
レンズ	ミノルタレンズ24～70㎜/F5.7～11.2 （35mmフィルム換算で約30～88㎜）
測光方式	中央重点測光
露出制御範囲（ISO200）	24mm: EV4～16　70mm: EV4～18
シャッター速度	7.8～1/380秒
フィルム感度	DXコードにより自動設定（ISO 25～3200）
ファインダー倍率	0.32～0.87倍
ファインダー視度	－1ディオプター
視野率（Hタイプ）	86%（3.0mの被写体に対して）
フラッシュ充電時間	約5.0秒

電源	カメラ本体：3Vリチウム電池CR2×1個 リモコン用：リチウム電池CR2032×1個
撮影可能本数	約12本（新品電池で電池消耗までに撮影できる本数　25枚撮りフィルム、フラッシュ50%使用）
大きさ	カメラ本体：99（幅）× 59.5（高さ）× 29.5（奥行）㎜ リモコン：31.5（幅）× 66（高さ）× 6（厚さ）㎜
重さ	カメラ本体：145g（電池別）　リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。
●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク（CEマーキング）は、本製品が電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-3356-9111（携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。）
FAX　03-3356-6303
受付時間　10:00〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝日定休）

サービスセンター・サービスステーション

製品の故障や修理についてのご相談をお受けいたします。

サービスセンター
新 宿 （03）3356-6281㈹
大 阪 （06）6341-6501㈹

サービスステーション
札 幌 （011）737-1212㈹
仙 台 （022）261-3431㈹
横 浜 （045）663-1445㈹
名古屋 （052）239-1251㈹
広 島 （082）247-3978㈹
高 松 （087）835-5568㈹
福 岡 （092）441-6121㈹

9223-2223-71 P-A008